

平成29年度



# 白川小だより

第3号 平成29年5月31日(水)

## きれいな風の吹くごとく

学校長 井戸 さえ子

「六月を きれいな風の 吹くことよ」(正岡 子規)

運動場のすっかり緑濃く繁ったケヤキの葉が、気持ちよく風になびいて、その下で元気よく遊ぶ子どもたちの声が響いています。梅雨に入る前、緑鮮やかで晴れ渡った空と生き生きとした子ども達の声が呼応して、子規のこの句が浮かんできました。

先日は、校内の授業研究会で、6年生が全職員に国語科の授業公開をしました。筆者の考えについて、事例を読み解き、更に自分の考えを持つという難しい内容でした。子ども達は、何度も「ややこしい。ややこしい。」とつぶやきながら、分からなくなると友達に尋ねたり、教科書の文を繰り返して読んだりして「進み方が変わる」意味をどうにか分かろうと粘り強く考えていました。真剣にひたむきに学ぶ雰囲気は、子ども達の生気が溢れる「きれいな風」です。

初めて町のドッジボール大会に出場する5年生の目標に、「みんなで協力し、仲間を責めることなく励まし合ってがんばりたい。」とありました。「責めることなく」というのは仲間への心遣いです。「大丈夫!」「がんばって!」「すごいよ!」と、ケヤキの下で響く元気な声は、勇気ややる気を蘇らせる「きれいな風」です。

人間は、誰もが緊張と弛緩を繰り返し、バランスを取りながら生活しています。学校の6月は、学年の生活リズムが安定し、夏季休業の準備をするまでは少し余裕もあって、児童も職員も気分的に緊張から解放されたい時でもあります。しかしながら、宿泊研修や様々な体験活動が計画され、学級のまとまりや児童のものの見方を成長させる充実期でもあります。梅雨の季節を迎えますが、初めての経験に子ども達の瞳が輝き、きれいな風の吹くごとく、生き生きとした姿で活動できるように努めていきます。

昔話の読み聞かせや語り聞かせの部屋「三日月堂」を開きました。初めて聞かせたのは「洞雲寺の雨乞いの龍」  
洞雲寺の住職さんに詳しく取材し、今でも残る龍の掛け軸の話を伝えました。

